

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 組織の概要	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
(3) 学生確保の見通し	3
(4) 組織の定員設定の理由	5

資料目次

資料1 学生確保の見通し等に係る ppt 資料	6
-------------------------------	---

学生確保の見通し等を記載した書類

(1) 組織の概要

筑波大学医学群医学類は、平成 20 年度まで 95 名の入学定員で学生募集を行ってきたが、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 3 名の恒久定員増及び「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を実施した。また、平成 22 年度から平成 28 年度までに、「経済財政改革の基本方針 2009」及び「新成長戦略」に基づき、平成 31 年度までの期限を付した 32 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。平成 29 年度を期限とする 5 名の入学定員については、平成 31 年度までの期限を付した再度の入学定員増を行った。

これらにより、平成 31 年度までの期限を付した入学定員は 37 名（地域枠 36 名、研究医枠 1 名）となり、このうち地域枠に係る 36 名について、平成 30 年 6 月 15 日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2018」に基づき、令和 2 年度に再度の定員増（2 年間）を、令和 4 年度～令和 6 年度に再度の定員増（毎年申請）を行った。

このたび、令和 7 年度の医学部臨時定員について暫定的に維持するとされたことを受け、令和 7 年度の臨時定員増（1 年間）を実施し、入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 98 名から 134 名（編入学定員を含めると 139 名）に変更する。（下表参照）

医学類の入学・収容定員の推移

完成 年次	入学定員 (別表第4)		臨時(期限付)増														入学定員 小計	2年次編 入学定員	入学定員 総計																								
	A	B	C	D	E	F	G	J	K	L	M	N	P	Q	R	S				H																							
2006	平成18年度																																										
2007	平成19年度	1	95																																					95	5	100	
2008	平成20年度	2	95																																					95	5	100	
2009	平成21年度	3	95	3	5																																			103	5	108	
2010	平成22年度	4	95	3	5	2																																		105	5	110	
2011	平成23年度	5	95	3	5	2	2	1																																108	5	113	
2012	平成24年度	6	95	3	5	2	2	1	2																																110	5	115
2013	平成25年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2																															112	5	117
2014	平成26年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9																														121	5	126
2015	平成27年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9	6																													127	5	132
2016	平成28年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9	6	8																												135	5	140
2017	平成29年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9	6	8																												135	5	140
2018	平成30年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9	6	8																												135	5	140
2019	平成31年度	6	95	3	5	2	2	1	2	2	9	6	8																												135	5	140
2020	令和2年度	6	95	3														36																							134	5	139
2021	令和3年度	6	95	3													36																								134	5	139
2022	令和4年度	6	95	3															36																						134	5	139
2023	令和5年度	6	95	3																	36																				134	5	139
2024	令和6年度	6	95	3																			36																		134	5	139
2025	令和7年度	6	95	3																																					134	5	139
2026	令和8年度	6	95	3																																					98	5	103

増数

増数	入学定員
A	入学定員
B	3 入学定員「経済財政改革の基本方針2008」対応分の定員増(期限なし)
C	5 「緊急医師確保対策枠」H21年度～H29年度(9年間)(地域枠推薦)
D	2 「経済財政改革の基本方針2009」H22年度～H31年度(10年間)(地域医師確保)
E	2 「新成長戦略」等 H23年度～H31年度(9年間)(地域医師確保)
F	1 「新成長戦略」等 H23年度～H31年度(9年間)(研究医養成)
G	2 「新成長戦略」等 H24年度～H31年度(8年間)(地域医師確保)
H	2年次編入学定員
J	2 「新成長戦略」等 H25年度～H31年度(7年間)(地域医師確保)
K	9 「新成長戦略」等 H26年度～H31年度(6年間)(地域医師確保)
L	6 「新成長戦略」等 H27年度～H31年度(5年間)(地域医師確保)
M	8 「新成長戦略」等 H28年度～H31年度(4年間)(地域医師確保)
N	36 「経済財政運営と改革の基本方針2018」(2年間)地域医師確保
P	36 令和4年度の医学部臨時定員の暫定的な維持
Q	36 令和5年度の医学部臨時定員の暫定的な維持
R	36 令和6年度の医学部臨時定員の暫定的な維持
S	36 令和7年度の医学部臨時定員の暫定的な措置

(2) 人材需要の社会的な動向等

茨城県は、厚生労働省による「令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計」においても、「人口10万人あたりの医師数212.3人（全国平均274.7人）」と全国ワースト2位、「人口10万人あたりの医療施設従事医師数202.0人（全国平均262.1人）」など全国平均を下回っており、統計的にみても医師不足は明らかである。

筑波大学では、卒業予定者のうち筑波大学附属病院のマッチング内定者は過去15年間で30名～45名程度で推移しており、本学は茨城県における地域医療の充実に貢献してきた実績を有している。本学における過去15年間の集計においても、卒業生における茨城県内高校出身者の割合は17.0%である一方で、県内就業率は51.6%と半数を超える。

しかしながら、昨今の地域医療をめぐる環境は厳しさを増す一方であり、特に茨城県は前述の統計による人口10万人あたりの医師数は全国ワースト2位、二次医療圏別でも本学の所在するつくば医療圏を除けばすべての二次医療圏が全国平均以下であるなど、医師不足は深刻な問題となっている。二次医療圏別でみると県北の常陸太田・ひたちなか地区、県東の鹿行地区、県西の筑西・下妻地区医療圏において特に勤務医不足が著しい。

これらの状況に鑑み、本学医学群医学類の現在の地域枠入学定員36名を維持し、当該地方自治体と協力し、地域医療について効果的に学ぶプログラムを充実させ、地域医療拠点病院を中心とした地域医療教育のさらなる充実を図り、地域医療に貢献できる医師養成を更に推進する必要がある。

(3) 学生確保の見通し

1) 志願者・入学者・倍率・定員充足状況等の推移

医学類全体の過去5年間の志願倍率は、3.6～4.7倍で推移している。また、地域枠学生の募集においても、推薦入試は3～4倍で推移し、前期日程は併願出願を実施してからは6倍を超える倍率となっている。

令和6年度の地域枠募集は、推薦入試で18名、前期日程試験で茨城県内対象の8名及び全国対象の10名の募集を行った。全体として併願を含め6.2倍の志願倍率を確保でき、前期日程において入学者が12名あり、地域枠全体で定員36名中、30名の入学であった。（令和2年度は地域枠定員を充足）

医学群医学類における、過去5年間の志願者・入学者等の状況は次のとおりである。

<地域枠>

		募集人員	志願者	入学者	志願倍率	定員充足率 (%)
令和2年度	推薦入試 (茨城県内対象)	17	88	17	5.2	100.0
	前期日程 (茨城県内対象)	9	40	14	4.4	155.6
	(全国対象)	10	17	5	1.7	50.0
	計	36	145	36	4.0	100.0

令和3年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	64	18	3.6	100.0
	前期日程 (茨城県内対象) (全国対象)	8	30	7	3.8	87.5
		10	18	2	1.8	20.0
	計	36	112	27	3.1	75.0
令和4年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	69	18	3.8	100.0
	前期日程 (茨城県内対象) (全国対象)	8	30	8	3.8	100.0
		10	6	1	0.6	10.0
	計	36	105	27	2.9	75.0
令和5年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	69	18	3.8	100.0
	前期日程 (茨城県内対象) (全国対象)	8	51	8	6.4	100.0
		10	67	9	6.7	90.0
	計	36	187	35	5.2	97.2
令和6年度	推薦入試 (茨城県内対象)	18	78	18	4.3	100.0
	前期日程 (茨城県内対象) (全国対象)	8	56	8	7.0	100.0
		10	89	4	8.9	40.0
	計	36	223	30	6.2	83.3

注) 令和5～6年度前期日程の地域枠(県内、全国)の志願者は併願を含めた延べ人数

<医学類全体>

	入学定員	志願者	入学者	倍率	定員充足率(%)
令和2年度	134	476	134	3.6	100.0
令和3年度	*129	498	120	3.9	93.0
令和4年度	*129	491	121	3.8	93.8
令和5年度	*129	510	128	4.0	99.2
令和6年度	*129	611	123	4.7	95.3

*総合選抜の定員5名は除く

2) 令和7年度における学生確保の見通し

令和7年度入試における地域枠学生の確保に向けて、まず募集人員の変更を行う。具体的には、充足状況に課題のある前期日程(全国対象)の募集人員を10名から5名に縮小し、その5名を推薦入試(茨城県内対象)に移す。これにより推薦入試(茨城県内対象)は18名から23名に拡充することになるが、推薦入試は県内高校の優秀な学生が応募してくる傾向にあ

るため、より優秀な地域枠の学生確保につながることを期待できる。(ppt. 1 頁参照)

また、筑波大学医学類の魅力(立地、総合大学での学生生活、教育カリキュラムの充実度、国家試験の合格率、卒後研修プログラムの充実度等)を発信するとともに、「中小病院ルール」及び全国対象における「診療科指定ルール」の撤廃、一般学生と同じキャリア形成が可能であることを広く周知する。(ppt. 2 頁参照)

具体的には、ホームページ等での発信に加え、茨城県と共同で高等学校や予備校への説明を行っていく。令和 4 年度以降は、平成 31 年度から医学コースが新設された県立高校 5 校や本学医学類に入学実績がある高校に重点的に個別説明を行った。医学コースが新設された 5 校については、令和 3 年度から卒業生を送り出し始めたところであり、意識の高い学生からの志願者数の向上が大いに期待できるものと考えられる。(ppt. 1~4 頁参照)

令和 5 年度から、地域医療に貢献する意思のある志願者をより広く受け入れるため、一般枠志願者のうち希望する者について、地域枠全国対象との併願を可能としている。志願者数において年々併願の効果が出てきているので、令和 7 年度入試では優秀な学生確保につながることを期待できる。(ppt. 5 頁参照)

(4) 組織の定員設定の理由

入学定員：恒久定員 98 名、臨時定員増(地域枠) 36 名、2 年次編入学 5 名 計 139 名

理由：

茨城県の医師不足を解消するため、筑波大学医学群医学類が担うべき役割は大きい。これまでの地域枠定員増により医師不足解消に向けた歩みを続けているが、令和 4 年医師・歯科医師・薬剤師統計においても、人口 10 万人あたりの医師数がまだ全国ワースト 2 位の位置にある。

本学では、地域医療を担う人材の養成を加速するため、医学類 139 名全員に対し、地域定着プログラムを教育課程に組み込んでいる。実際の地域で学習する機会を大幅に増やすことにより、学生は地域医療の魅力と実践に必要な臨床能力を修得するとともに、地域医療の現場で活躍する医師のロールモデルに出会い、そのキャリアデザインを明確にイメージできるようになる。これらの取り組みにより、本学卒業生の県内就業率は 51.6%と半数を超え、少しずつ成果が見えるようになってきた。

また、引き続き地域枠定員増及び地域医療教育を行うことを想定した茨城県の算出によると、県全体の必要医師数 7,681 に対して 2036 年に医師供給数が 7,697 名に達する見込であると推計された。あくまで定員増と地域医療教育を継続した上での推計であり、その目標達成に向け、当分の間は入学定員 139 名(地域枠定員増 36 名)を維持することが必要である。

1) これまでの取組の継続

- ・入試における地域枠の併願制度は、まだ導入して2年が経過したところであり、年度ごとの入学者にばらつきはあるが効果的であるため、引き続き説明会等でPRをしながら継続する
- ・オープンキャンパス、茨城県主催の説明会(8月上旬)で引き続きPR活動を行う
- ・県内及び都内・千葉県等の高校・予備校等の訪問、出前授業、模擬講義、体験学修等を積極的に行っていく
- ・高校の医学コース進路指導部に直接的働きかけ

2) 新たな取組

- ・推薦入試の地域枠(県内対象)に各高校の優秀な学生が応募してくる傾向 ⇒ **推薦の枠を拡充する**
令和7年度入試からの募集人員を以下のとおり変更予定である

令和7年度 学生募集要項「医学類 募集人員」(予定)

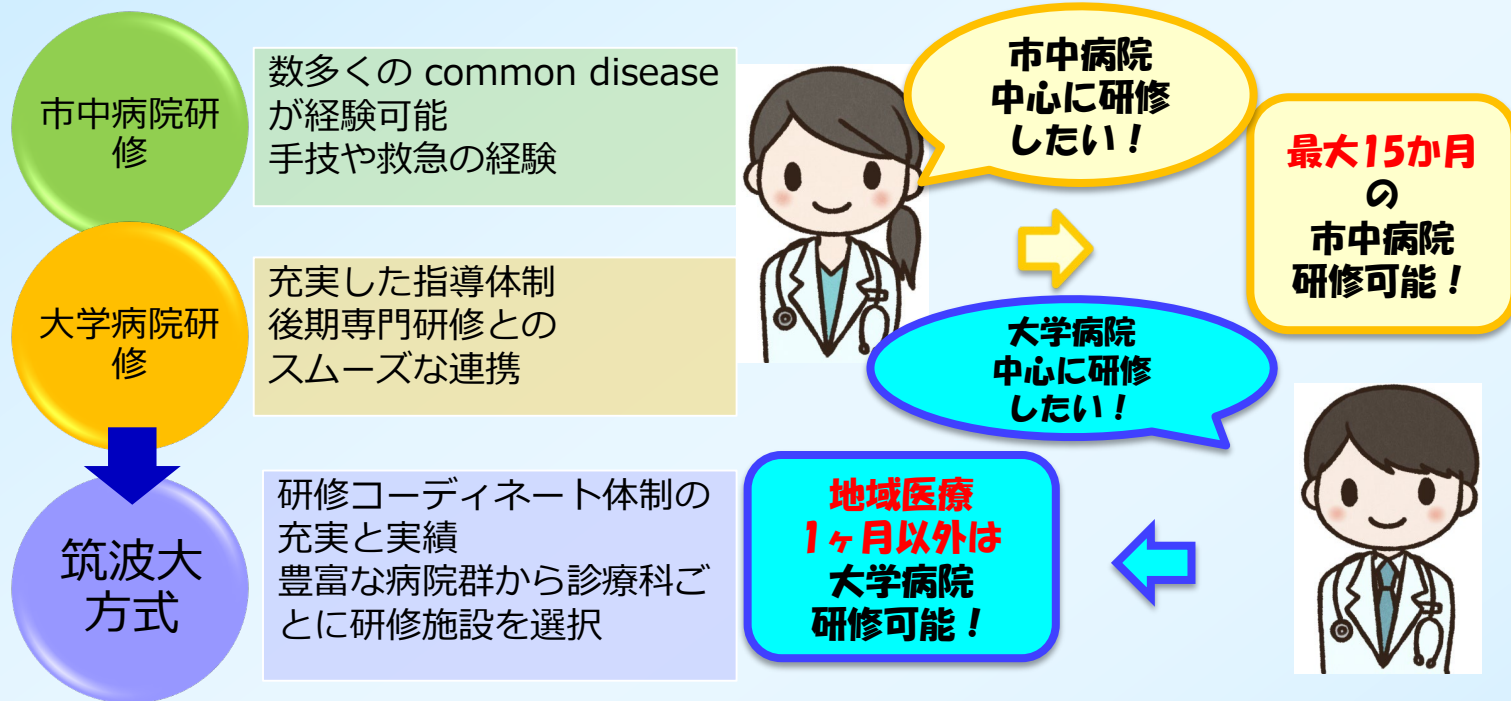
令和6年度入試	学群	学類	入学定員	推薦	個別(前期)		総合選抜	国際バカロレア	海外生
				地域枠(県内)	地域枠(県内)	地域枠(全国)			
医学群	医学類	134	44	44	44		5	3	2
				18	8	10			



令和7年度入試	学群	学類	入学定員	推薦	個別(前期)		総合選抜	国際バカロレア	海外生
				地域枠(県内)	地域枠(県内)	地域枠(全国)			
医学群	医学類	134	44	44	44		5	3	2
				23	8	5			



医師確保のための特徴ある大学の取り組み 選択性の高い研修プログラム



筑波大学地域医療教育ステーションとも連携

1年目 (筑波大学附属病院)												2年目 (地域医療教育センター)											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科						外科			外科			小児	産婦	精神	地域	選択							



茨城県地域医療支援センターと連携した取組・広報活動等

🌐 中学生・高校生の病院見学

- ▶ 医学コース設置の茨城県立高校・中等教育学校全5校に対し、積極的に筑波大学医学類へリクルートする。
- ▶ 実際の医療現場を見学することで、医療に対する理解を深め、医師を目指す意識の高揚を図る。

令和5年度病院見学開催一覧

学校名	受講学生	受講人数
県立古河中等教育学校	4年次・5年次生	26名
県立並木中等教育学校	5年次生	11名
県立土浦第一高等学校	高校2年生	30名
県立日立第一高等学校	高校1年生	20名
県立水戸第一高等学校	高校2年生	35名

🌐 医師の学校訪問

- ▶ 医師の講話や医学生とのディスカッションを通して、医師という仕事について理解し、医師を志すきっかけをつくる。(対象: 県内の進学校)

R3年度

学校訪問19校

R4年度

学校訪問20校

R5年度

学校訪問17校




県立医学コース設置学校等への広報活動

茨城県立高校・中等教育学校に

医学コースを設置!!!

「医志」を持つ者、来たれ!



水戸一高

土浦一高

並木中等教育学校

日立一高

古河中等教育学校

県教育委員会が県立学校
5校に医学コースを設置
(令和元年度入学生から)

40名×5校=200人

茨城県の主要進学校14高校の
進路指導教諭と面談

→積極的に県内学生を筑波大学
医学類へリクルート



これまでの取組の継続

令和5年度入試から併願制度を導入

地域枠(特に全国対象)の欠員状況を踏まえ、令和5年度入試より出願時に「併願」できる仕組みを導入した

◆募集要項に掲載している内容(抜粋)

(3) 一般枠と地域枠の併願について

医学群医学類は「一般枠」「地域枠全国対象」「地域枠茨城県内対象」の3区分で選抜します。

各区分の併願を以下のとおり取り扱います。

受験者は①～④の出願希望区分から一つ選択してください。

出願希望区分	選抜区分		
	一般枠 (募集人員44名)	地域枠 全国対象 (募集人員10名)	地域枠 茨城県内対象 (募集人員8名)
①一般枠(単願)	単願	—	—
②一般枠優先(地域枠全国対象併願)	第一志望	第二志望	—
③地域枠全国対象優先(一般枠併願)	第二志望	第一志望	—
④地域枠茨城県内対象	—	第二志望	第一志望

※出願希望区分②～④で出願する場合は、それぞれの地域枠の出願要件を満たす必要があります。

※出願希望区分②～④の併願は、第一志望を優先して選抜し、第一志望で合格とならなかった場合に第二志望の選抜の対象とします。

※入学後に「一般枠」「地域枠」の変更はできません。

